武江年表

武江年表巻之七

寛政元年己酉　二月廿九日改元　六月閏

○夫明七八年の頃より碑文谷法花堂の仁王尊補修成就せるよりして貴賤男女糸指を事となり次第に群集夥しく十二年ごろまでかくの如き有りしなり

○二月甘露降　○米穀豊饒なり○永代橋小成田山不動尊再建なり其納物あまたなり糸指羣集す○淺草観世音修覆○五月十九日僧師入江北海卒名貞称孝右衛門下谷長楽寺に葬る

○七月七日狂歌巫女世絵師鳥居清長卒通称倉橋寿平画作も多くはり市谷浄瑠璃坂に葬る

○七月七日狂歌師慈川春町卒

○八月八日大風雨家屋を損ず深川辺大水○八月市谷光徳院ふく川口鍋秋る地蔵尊開帳○角能人谷風梶之助小野川喜三郎横綱免許又九役能

閏六月十七日より目白長谷寺竹生島弁才天観世音開帳

と呼べる角力取行る○十月より始り大川筋并に外川々御普請中洲築地取払せられ翌年に至り元の水面となる○十二月廿日夕より夜へかけて再甘露降る○深川寺町法乗院不動尊流行出し祈願の者多し

○本所松代町本誓寺火除と成て代地深川田安女正殿屋敷の地を下さる○神佛の開帳年々に盛んにして数多ありしかど寛政より享和迄の事委しく記せる物なければ尚穿鑿して次編に詳なるべし

寛政二年庚戌

正月廿一日本所松代町より出火砂村百姓屋迄焼る○三月九日画人劉安生卒 号秀山麻布曹渓寺に葬る ○三月十一日下谷稲荷社祭礼産子町々より出し邌物出る 本所の時は花子の○○後より太神楽の警固なせしを旧例とす後中絶せり ○永代寺にて京都大佛の内弁才天開帳に付境内見せ物に壬生狂言を出せ世に行れて高名を施て名物とし 帯筒

の輩も酒宴の興にこれを学べり○神奈川浦島寺観世音江戸に於て開帳 両不祥 天宝年 手すさびにせしなり ○八月十四日狩野栄川院典信卒 一才 ○八月廿三日前句付点者川柳卒 浅草新堀端龍宝寺に葬る川柳ハ同寺門前の坊正にして柄井八右衛門といふ俳諧の一体なる俗談をもって発句を作り是を集て柳樽と号し数篇を撰ぶ今に至て流行す凡今の緑亭川柳五世に及び柳樽の后輯年々に梓行せり按ずるに宝暦の比武玉川といへる俳諧の句集あり此より俗情を述る川柳もこれより一変せしものとなん

○九月六日儒師山中天水卒 六十二才名然良称猶平 浅草行安寺に葬る ○十一月廿七日夜大地震

○十一月琉球人来聘 正使宜湾王子 蒲原の客舎にて富士を望みて詠る きのふまて山をいくへにへたてつゝけふ客舎の富士の根 宜湾王子

○十二月二日三日夜甘露降 ○湯田問答成 天明よりこのかた湖名真雄志田蜀山 武江の雑なる問答の書あり

○琉球談刊行 森島中良著 又朝鮮談も刊行せり ○磁器焼絵屋始る

同三年辛亥

○正月十五日儒師平沢旭山卒 五十九才名元愷称五助 深川法禅寺に葬る ○二月十五日より五十日の間浅草寺観世音開帳○市井の法令を改て町入用の費用を減し積金始る

翌年六月移植向一所今新兵粮花を創建あり是米價貴騰のゆへ
或ハ不時の災変の物徒民を救ふ[illegible]みるの所仁恵あり○京師の子嵯
庵ゞ弟子中沢道二（京西禅寺塔院居　龍孫久云清）江戸に来りて芳湯町なる医師前田一貫
宅にて学を講じ[illegible]ゞ才ふ聽流集りて[illegible]花田相生町向の片町より参
前舎を建て講演の所とし道二義を[illegible]といふる書数篇拝よ後ゞ世に行
る（参前舎ハ今ハ相続して[illegible]）○六月十五日夜九ツ時ゞ大雨雷交る○荒川洪水の後
猪濱松平豆州侯御下邸と成る○六月加茂縣主季鷹但馬住吉の社
前に碑を立る（始ハ京祢の[illegible]動静の事を述へて[illegible]次ハ云元禄七年川上[illegible]吉信郎大坂強伊云
[illegible]といふ若徒ふ私の盛[illegible]動あき授を定めて[illegible]洋中の[illegible]生風浪[illegible]のまゞ[illegible]
[illegible]と[illegible]保の氏子ともふ[illegible]て[illegible]社を[illegible]祝[illegible]れる[illegible]云ことなりて未ふ[illegible]あり
樽木の以後[illegible]）
○醫学鈴日講始る○堀町河岸あく馳走を見せ物とし（[illegible]ふ石を
合ひ又[illegible]炭ふ大火起

しる合ハ）○八月六日六月雨小田原辺より江戸近海辺に潮上る○町火消組[illegible]を
改白隼塗とする○八月十七日麻布宇村氷川明神祭礼出し練物ふ出る（休）
○八月廿日暮方より雲出海より暑ふ[illegible]り大風雨明七時止む
○九月四日大嵐昨夜中より大雨南風烈く八月より強し已刻に潮荒川
河幅（漲りて[illegible]）入船町久右衛門町三丁目武丁目に唱へし吉祥寺
門前ふ建つる町家住居の人数と共ふ一時ふ海へ流出て行方を知ず
弁天天社横ゞ拝殿別当ふ外流失せし[illegible]の浪ゆ徒船橋塩漬一円ふ
つゞれ民家流失せし外諸方家屋吹損し川ふ溢る晝時ふいより潮引く関
東筋ふ[illegible]く洪水ふる（諸ふ云蟹陸へ[illegible]遠ふ[illegible]洋浪の兆ふ[illegible]既ふ[illegible]）
計りがたし[illegible]西ハ船町限東ハ吉祥寺門前より[illegible]る迄凡長弐百八十五万間の
家居を取[illegible]ひ畠地ふ[illegible]る（竹内西の[illegible]入船町辺ハ
潮江氏某[illegible]載[illegible]場と[illegible]）○九月十三日能人美秋座

白雄卒（享年七十二歩品川海晏寺ニ葬ル）○九月廿七日僧師松田牡蠣卒（名長恭麻布天徳寺ニ葬ル）

○神田明神祭礼毎年ヒトリ御雇ヒ山車ヒトリ始リ（享和ヨリ経費ヲ減ジ文化年中ヨリ踊リヲ止ル）附ル六ツ二組ト成ル（年番ニ勤ムレトモ一ツヲ一ツヲ出スベキ筈ナレバ後年ハ費ヲ省ク為ニ一ツの踊絵物申物ヲ出ス）○十二月九日田向院ニ金ヲ寄セられ永代ヒトヒロ（ヒロ）ヒロ（ヒロ）流傷流死の者施餓鬼修行ス○十二月十四日十五日神田社年の市始る（浅草市ハ傷ル日ヲ定メズ後年廿日廿一日ニ改む）○十二月□日下谷火事○（深川洲崎名物の蕎麦九月ニ復の後絶ル）

寛政四年壬子　二月閏

六月初午の日芝日比谷稲荷祭礼麻布子町ヨリ出ル絵物ヲ出ス○二月七日麹町火事○壬二月六日詩人安達文仲卒（名俗呼法治三の福芝ニ葬ル）○四月の比より米價騰揚ス○五月十四日新井白蛾卒（年六十六称孫右ヱ門易学ニ名あり）○護国寺ニ於て三十四番観世音開帳○六月十番山王御祭礼附祭二組と成る（神田ハ同ト云ヘレドモ雇ヒ山ハ本町外弐丁ヨリ出ル）○六月餅鳥猛安側ニ町会所救荒ヲ建ル是迄ハ大的場ヨリ

○六月十八日亥刻光物西南より東北ニ飛大サ釜の如シ○七月廿一日飛戸梅猛安の梅舊稼焼失スルヨリ江戸物ヲ書入ト云ふ事ハ無シ

○七月廿一日南大風已上刻麻布并猪ヨリ出火ス統土今井谷赤坂青山ヒロ谷合羽麹町火事（番町麹町飯田町小石川河内小川町三橋稲荷の社辺迄焼亡　此後番町麹町の裏ヨリ火除地出来る（此時迄番町ハ天正年中の家僅ニ残ル）○牛込神楽坂道西側ハ山下伊奈家の邸ハ無シ後又武猛安町家ハ改ル○八月十二日西人松林山人卒

大川橋ヲ掛ル　○西本願寺御堂再建（紀州和歌山藩中より寄進者若干二万五千八人手別の名ヲ掛ル其代ヲ一ツ建る旨しき建方ニ付）

堂間口十八間奥行廿五間　○谷中感應寺（今天王寺）五重塔ハ和九年二月廿九日焼ル今茂

今年再建あり○十一月七日僧師千葉芸閣卒（名宣之称孫右ヱ門千葉木絵探ル ハ号）○十二月八日

深世繪師勝川春章卒（浅草西福寺ハ葬ル号旭朗井俳優浮絵ヲ画ク多シ門人春好実英実岳実山春徳春林春潮春玉実春数名あり）

○十二月十八日下総八幡宮社内樫の古樹を掘穿るに古墳を見る高さ二尺
深り二尺二寸元亨元年四十二月十七日別当紀四と彫る

寛政五年癸丑

正月関東地震○麹町若宮丸吉年火除の為地を石垣にされ神楽坂に代地を
あたりけるが今年二月普請成就して廿七日開門天迂産あり○二月浅草寺
奥山にふたたび樹数株を栽る○三月六日より茅場町某師境内に庵州鏡
が浦西行寺西行法師像開帳○橋場神明宮内天満宮開帳○五月より
九月まで江戸霖雨大川出水○九月廿日書家荒木呉江卒 号玉水 九山 長崎の人
○九月先達て魯西亞漂流して帰朝せし伊勢白子の船頭幸太夫磯吉江
戸へ来る 天明二年十二月駿河神昌丸難風に逢ひ漂流せしとい[illegible]磯吉今年廿八才にして伊勢の産
程なく死れり幸太夫は今年十四才十二才仮田町の河某国にありて後若年寄に伝へ[illegible]
○十月廿五日湯島松平雲州侯別館より出火神田豆腐町石町堺町

葺屋町芝居日本橋辺迄類焼す○十二月柳原土手下町孤の内須田町
二丁目小柳町平永町小北例を取掛り是外神田小代地を賜り明地中
成後小数蔵を建らる 町会所数義の建場なり ○月日不知 儒師原敬仲卒 名恭亂雙桂の二男なり又雙桂名八
瑜号尚庵明和四年九月廿日卒はもと弱延吉祥寺中
泉寺小墓に葬る小墓に葬る

同 六年甲寅 十一月同

正月十日未中刻鞆町五丁目秋田孤仙某という酒屋より出火烈風にて
山王御社永田馬場霞が関虎御門外樫田辺迄焼番頭牧宇敷焼幸橋
御門焼屋敷下日蔭町新橋芝新堀仙蔵金沢家小一田焼亡せり
○正月廿日俳人金羅卒 号梅西 芝の人 小墓に葬る ○二月廿八日儒師吉田子方卒 根岸
若性寺小墓に葬る ○三月幸橋御門外兼房町和泉町飛沼町伊勢町伏見町若右
衛門町久保町左右米屋町小の門火除の為町家を取掛り空地とせられ

尚時の所なり武家たるて在しを外へ移されて代地をあらる
○川口善光寺如来開帳 奈良清摩集 ○川口の渡し船覆り怪死人多し
○四月二百文半刻古来江戸町武丁目より出火一廓焼亡 仮宅田町聖天町山の者元町へ出る
○四月十七日青山梅窓院主菊山和尚寂 詩及ひ書を
○四月廿七日儒師菅野子徳卒 名義直九山 本姓大江氏
○六月十日儒師街道里卒 清水氏 江戸儒者
○八月十九日國学者林浦島卒 称和助号梅居士備後院主 男七郎枝とも文化年卒
○秋半所々の格溝に内匠製造なる格柱を〻〻して撓る者奇巧あり 文化年間の如く格柱を〻〻
○十月晦日哥人伊藤松軒卒 号倚松庵青山 梅窓院主義
○十一月三日子刻大地震 ○十一月四日象刻蔵六居士卒 本所長山寺
○十二月廿九日狩野永徳高信卒 年六十 深川浄心寺
○江戸地図巡行所を定む 寄事記あり
○四神地名録写成 古れ彩黄薇出入編輯 を郎の名を記す
○出羽国より大童山文五郎出 十一才 肥満して廿二貫目あり 角力を取しが年

長ずして弱くなれり ○當道大記録成 写本一冊 一ツ目兵庫 社役 深川源義著

寛政七年乙卯

○正月九日谷風梶之助終 江戸谷風 墓碑あり
より出火影焼多し ○二月十三日書家細井行岡卒 名庸 称次郎 年八十才 浅草善照寺
○三月十八日より六十日浅草観世音開帳 仁王門再建成る ○三月十日雨
を安産 ○六月七日儒師清水江東卒 年六十 本所谷の商家大坂屋
夜大雷廿六日雨降ると云 ○七月八日儒師市川雅鳴卒 名匡 称文門 年七十 西窪光明寺
○七月十三日星月を貫く ○八月七日梅柳軒重明卒 称伊田 主水と云 上州
師の門人なり 名あり 寿七十二 杉井田の産 京の浅田
谷中天王寺中子院なり 墓あり
出し絵物あり出る ○九月十日儒師三浦瓶山卒 名衛奥 称左兵衛 本所中の郷 徒士なる 墓 男を吳山と云
○秋凶作米穀價登 ○九月廿一日青山久保町熊野権現祭礼 年

所々より出し絵物を売る○十月十二日太田大洲卒 七十歳名浩元平所大洲と称す

寛政八年丙辰

○二月白牛酪 享保中秀州嶺岡ふ白牛を放養せしめて白牛酪制法を命せらるゝ所僅ふ三頭ありしが氏時代に至て絶えたるを寛政壬子五月桃井源寅白牛酪考一巻を撰し梓ふ行へり

○二月谷中感應寺毘沙門天開帳○夏矢口新田の神輿出○芝泉岳寺釈迦八相曼荼羅開帳義士の遺物を見せ申す○四月十二日牡哥師葉楊菴光卒 称岸宇古藩門弟 瑞泰寺ふ葬る ○六月九日名越明神系礼神輿を渡し出し絵馬の市おびただしく甚後中絶す○六月十日書家澤田東江卒 六十歳深川号玉函山人称文二郎 ふ葬る ○九月中所ふ古刹修立不建つ○十月四日孤汗軒淑名貞雄君卒 八十一才古実考を又江戸地理の出編集もなす 四谷戒行寺ふ葬る

副使 安村親方 柴野彦輔琉球人を接待あり ○十二月六日儒師黒沢雑岡卒 名萬新 称右仲 八十四才

同 九年丁巳

七月望

二月廿八日牧野洞春卒 名英信 上総国佐貫藩ふ流ふ葬 ○春三田魚藍観世音開帳○和田江の島弁才天開帳江戸より諸人多し○四月廿七日画人三輪花信斎卒 名在栄 猿を原氏の母様ふ上手なり河豚の平吉ともふ猿を画き一顆あり一世今八見えず 四谷勝専寺ふ葬る ○猿江泉養寺庭中の藤花牡丹皆某ふ中月に咲く江戸物群集せり○六月三日牡丹師英ふ戯作者の虚名卒 号三亭と云絵を紙や 山谷正法寺ふ葬る ○橘の異品を養ぶ者流行 橘品 異橘品類考 東藤沢千 ○七月六日大雷所々ふ落る○七月十日中村佛庵景連 書を善くす そ氏子宗錫也 伴ひ浅草ふ観世音(清水)の新中大川の辺ふいろり沢水面ふ天満宮の木像を切て家和元年深川法禅寺ふ安置 旭天満宮と称す ○七月廿日吉実右衛門真野是義卒 名安邑 称七郎 右衛門 翠町ふ住む ○十月町人消人豆の内始て二百七十四人の頭取を命ぜらる(十月廿二日義家家臣義郎向佐久間町の出ふ

より出火某所堀の辺より大川を越深川六軒堀八名川町へ飛海辺新田永
場迄焼亡○十二月廿二日武器古実考柳条斎山人卒 名長俊称一学命天寿中了侍与力義民
○十二月十八日醫師宇田川玄随卒 名晋号槐園若彩者中妻醫院の義男を玄真と云 ○十二月廿一日俳人
妍家津富卒 卒七十今戸 ○東海道名所圖會六冊梓行 炉里雑為著名家合画
○和漢年契一巻梓行 播州の人高瀬著太平記の本二部あり又寛政十一年梓行の
人物を恵光子編和漢年代撃要一巻を梓行す

寛政十年戊午

改暦頒行寛政暦と号○二月十九日俳人小菅宝馬卒 一日庵五十日魯行一
茶堂と号七十二才 ○四月金彫工六森英秀卒 二十九才号清秀 ○五月朔日石川仲より縣
より長九尺巾三尺余の鯨あり 此比何日のものか不詳 ○六月廿三日医師人見卒良卒 本所本法寺中
遠近見物の人多し ○六月廿三日医師人見卒良卒 本所院内の義也
○六月廿三日画人梅里山人卒 名国泰瓦師あり中の丸成瀬の家来

の向小物義を建らる浜町の所家半迎斎町の辺ゆく代地をもとめ
今の半迎岩戸町へ ○九月一日儒師若田蟹嶽卒 卒八才 命夭折する小
義也
○九月十一日狩野永貞春信卒 ○十月廿八日茶人宇極宗極卒 号鼓月菴
西丸小姓
○十月廿九日初夜より星空くく飛んく夜半よりふるとても空の乳
毛一面小雲の落るゝ如く見えし ○十一月三日若星の飛ふるあの如し
○儒師岳麻谷卒 名之浩称小弗栄義 ○十二月十二日狂言師宝樂常次卒 六十一才 絲山焼
七十二才 月日不詳
○安半迎年籠町小住青山青帰るる小義也
辞世 執筆の名や梁簡まゝ籠るら岩邪の横文科の月

同 十一年己未

正月廿九日二河町より出火神田辺町極焼亡此時後塩倉河岸
町極を十間通り繰延げ小成る同不治暮往還廣ゞる ○二月十五日三圍稲
荷開帳 奉納造り物西くゝ日本橋白木極より天蓋織わく浅草牛込本黄の木偶を
似せ同浅の師物ゝ岩をつくりの姫ゝ人物等集ちる中おびたゝ

○聖堂御再建境内廣ゝ大震落ス○湯島風閣与富山修験解脱 青山久保町ニ移る湯殿ふかりし亀有町糀町ニ代地を給ハる時なり

○三月後行者千百年忌勅して神農大井の号を賜る○霊岸島理立地ふ眼実地産物会所建□ふ○夏寺院村法泉寺祭礼ふ勅免開帳ハ止む

○六月四日より谷系村 緑間の辺 長命寺 新寺称とりふ 山内讓米の稲人の面ふ別る

見物多し○七月六日夜大雷子刻ハ大雷雨○六月十九日儒師佐久間文示卒 名維章 号山 玉堂ふ墓ハ ○八月青山海蔵寺檀家和泉孫左衛門ハ家ふ一ハ五尼ハり刑罪の首級ハ百を過ぐ当寺ふ墓供養の塔を建る

○十一月十九日夜ハツ時ハより大雨大雷数ふ一昼夜

寛政十二年庚申 閏月閏

六月廿六日夜谷中いろは茶屋より出火近き寺院多く焼る

○二月廿三日麦半刻田圃龍泉寺町より出火吉原京町一丁目廓中焼亡 仮宅田町 聖天町山之宿九町 鶯谷越山谷町 横山町 ○七月朔日より護国寺ふく秩父三十四番観世音開帳

○四月廿九日閑其寧卒 六十八才 称源義男恭の養子 小日向称名寺ふ葬ハ ○閏四月七日俳人山内花縣卒 六十五才 実秋田と号 麹町ふ住る ふ葬ハ ○五月十一日宮儒服部栗邨卒 五十五才 名保命 称若狭

○銀座常是稲荷町より蛎売町ニ移る○九月十二日唄うたい湖出市十郎死 谷中妙福寺ふ葬ハ ○十月六日金雕工菊岡氏祖光行卒 年一才 ○同廿五日書家依田与東川卒 名義之 字不法恩寺ふ葬 ○十二月廿七日書家稲葉華溪卒 年 字西福寺ふ葬 ○江戸住古図説成 字市太郎 号長蘆

○今年富士山女人の来詣多ハ ○浮世絵考成 写本一巻 山東京伝

蘆世絵の大祖又名浦英一楽宮川長春ハ祖ト江戸ふ名人多し又天明寛政の頃より剛人刷人の上を出て巧を尽し次第ふ美麗の物出来て方物の外一ハ多ハり出ふ江戸ふ及ぶハ

此年間記事

毎月晦日上野の大師遷座の時素流軍集ひる事寛政のより始まり
此時代名家△儒家・山本北山・亀田鵬齋・細井平洲・服部栗斎・柴野栗山・
古賀精里・彭井白蛾 易術ハ・
△画家 高岩若谷文晁・董九如・長谷川雪嶺
鈴木芙蓉・森蕙斎・△狂哥師・唐衣橘洲・尚左堂俊満・又浮世絵・狂哥堂
真顔・六樹園阪盛・蜀山人・芍薬亭長根・△浮世絵師・多文齋栄之・
勝川春好・月喜英 九徳斎・東洲斎写楽・葛飾北斎 狂哥の招物渡有ハ・
川多川哥麿・北尾重政・同
政演京傳・同政美 憲斎・窟俊満 尚左堂と号・狂哥師なり・葛飾北斎 狂哥画く行なる・爾義
歌麿・鶴蘭・栄松斎長喜・栄徳斎春童・田中益信・古川三樹・慌等諸
金長・ちゃく狂哥或名弘の招物ハ刷人刑工の巧をつくし花鳥を極る事代
時代より盛なり○曳屋庵の我家ハ栄学医の始祖なるハ中川須菴志保ら
ちゃかど果さべ生後奥平侯の侍医前野良澤 号蘭化 ハ米ひら市ら生門

人・杉田元伯・宇田川玄随・桂川甫周・大槻玄澤ハつゝ大ハ若ゝしく
此道ゑれりといふ○浅草も随分門前の茶店鶯谷のおき元茶屋極川高
島のおひさ芝神明前の菓子屋のおとゝこの三人美女のほえゝて隆盛をいと
ちゃかど名ハ慧ハ人引もちゃかど○吉原廓の名妓花扇花毋ハ孝ハのほえゝ高家
の清人費晴湖湯ハありてこの孝媚妓ゞ事を守られを賛しる行あり
曲亭の馬雑の記ハ載ふ○婦女のたゞさゝふてびたゞり始む 延享中始りしハ
○堆朱漆衣類ハ行る○鞠画の我を行る○いつのより始りしら西ゞ京
ハ湯島の牡丹屋太右衛つゞ別荘ありて花樓ハ行白の牡丹英を植そふ
盛の以貴賤参年集せり 文化の始ハ ○酒楼ハ於て書画會を催ふ世以
始る 近代市井の名家書画作ハ書画会ハ寛政の以後会の ○児遊ハ現ハ切り組燈
偽墨潔といふのより始りしよりの
義俗ハ上方ハりの物ゝ夫故始ハ京の生洲大坂の元治祭の園林を重板せり

寛政享和の比葱政美多く画き又北斎も續ひて画り文化のころ
奇川國長豊久氏伎ふ工風をこらし数多く画き出せり生存今よりなほ
年くゝ出せり○人物多戦山水を能美象を四角に画くの戯を行ふる
書翰角を彩色ありて商ふる實政の末より始る○寛政十一年の春より王子村料理茶屋海老や扇屋又
せ印きあり○是双紙の類寛延宝暦の比多く古の合戦武功の次第或敵討等の話をつゞり童児の
戯院多りて既和安永の比より世上風俗の淑慝男女の情態をのべる編輯多く此頃市
人世を厭せ初雅のゝむを以大人事ら是を手びそ功拙を論し清日の淡と為ふに至る寛政よりこのゝ山東京傳
是を二変せしめ勧懲を旨として多く他書をうその内善悪を悪のさゝゝ殊ふ行わるゝ

享和元年辛酉　二月五日改元

正月十四日俳人椋茶菴卒山梅人卒大久保泉福るふ葬○正月十八日画人小山寒巖
卒名孟熙　椋坊法源ふ葬○二月二日茶人千柄菊且卒西河岩西の坊ふ葬○二月十七日一刀
流剣術師中西忠太卒根岸名性ふ葬○三月十八日より十五日の間浅
草弘世音閑帳○亀戸天満宮閑帳○同月不動閑帳○同月より

深川法禅寺に武州熊谷ふ弥陀如来蓮生像ふ開帳○五月四日大雷雨
三箇ふ○五月十七日官医奥紀永寿院元徳卒七十六名元惠号蓮渓　本源城官ふ葬
○六月十二日板橋宿板橋水車の下より奇魚を獲ふ長五尺一寸横二尺
六寸四五ばかり僅ふ三寸餘巨に微月ふて独身色黒のごとく黒点斑あり
○六月十四日より田向院に張山家清源ふ新迹如来開帳○六月廿九日儒
師細井平洲卒平賀名徳民号如泉林甚之丞　浅草ふ葬又無院ふ葬る
卒小越の人浅草新寺の中坊清ふ葬る○九月十八日画人蘭斎森文祥
男を蘭暁安良と云医師ふり
○九月十八日金雕工名本昆寛卒五十八才　称甚之丞
○茅義縁五十巻板行学問所御板行○十月十九日夜元飯田町焼亡
○十一月廿五日夜神田鍋横町より出火十四町焼す

同　二年壬戌

二月廿四日麦神九百年御忌○鞆町平河天満宮閑帳○二月廿八日より柏木

村田某が薬師如来開帳○二月より四月に至り風邪流行り窮民へ御救米給を下しおかる（俗にお七風と云ふ八百屋お七の小唄はやりし故也）○三月八日より木下川薬師如来開帳
○同十日より根津社地に在る不の上野尾天神開帳○同十五日より同所稲荷天
満宮開帳霊宝を拝せしむ○三月廿日笠間巨山卒（鳥場橋の側に住せり小川破笠門人生山子又号子と云ふ）
俳諧を好く画をもよくせり今年六十七才にて終る ○四月朔日より渋谷金王八幡宮開帳○五月十八日富
本延寿斎死（中の町成林寺に葬る）○五月木の元才荘といふ人焼絵を再興し会席を
設く焼絵へちいさき鏝を焼て画くなり濃淡自在にして其紋あて画くが如く昔もありける
ことあり『続負（？）』といへる人の書きひろめし此才荘は風流の人にて多能もよし茶の細工もなせ
し捨枝の琴琴紋ちるみ端を引焼をもして水にうかぶるの妻ひも此事より始りしなり又一弦の
琴を弾ずることもてはやされる『あいらくにおいしやらかう板琴ときひてからそめやかなぬ一節』
才荘一弦の琴は以前朝臣須磨にて作りしめてまで伝ひなひこそ手はこそ名付
くるを河内国金剛寺覚峯律師その秘曲を伝へし近頃の世に授られしより才荘はおのれ
が文の友にして文化の末迄六十余才にて存生せしが終りぬ初代焼絵は今に此技をなす物ありて世
に後葉と号せり ○六月霖雨七月に至り本所深川辺洪水（両国橋落る大川に両国橋の外通行成る武州権現堂堤押切といふ）

○七月十八日狂歌師唐衣橘洲卒（七十六才 称小島源之助 四谷法寺に葬る）○七月廿三日画工董九如
卒（号広川居士 浅草法養寺に葬る）○八月十二日儒師高原子行卒（名流 称林八 高田宝泉寺に葬る）
○九月廿四日小石川谷山権現参詣群集町々より出し練物出る（甚だ渡しく止らる）
○十一月十九日夜六時過より牛込辺焼亡○十二月五日深夜より駒込出火夜明に至
る迄焼る○同十一日根津門前茶屋町焼亡○賊のぞうまる成（写本一冊森山某の筆記にて延享
寛延以来江戸の風俗を著したる書成なり委く末に記なり
今ある一此の続にあたりて昔を今と称すると云ふ説也）

享和三年癸亥　○正月閏

閏正月摂州東生郡九条村より白雉を献る○二月儒師岳東海卒（六十九才 名融 称太仲）
○三月四日暮六時過大地震○三月より浅草誓泉寺にて相模星隆山妙純
寺祖師開帳○四月より六月に至り麻疹流行人多く死せり○五月五日黄昏
西より東へ一筋の赤雲掛る○五月廿八日より下谷稲荷開帳○同日夕

浅草寺中梅園院より相馬大山薬旅泉寺安親世寺開帳○六月朔日より
田内院より物乗光明寺雷電説世寺開帳○同日より浅草伝法院より信州
善光寺如来開帳○同十日より冊日の間辻番所一ツ目辻番大天開帳
○六月十一日小学者中澤道二卒七十九才深川猿江妙考寺に葬る
嘉樹亭（称一郎本姓号蒼梧生平三大浅草本願寺に葬る）○詩人永原琴卒八十三才名伴與称右吉
吳服町中巷谷院に葬る
○七月高嶋漢信豆狸〻翁の図を画く浅草観音堂の外障に掲く
○七月朔日より浅草寺中金蔵院より相馬大国寺釈迦如来開帳
○同日より永代寺より常陸国阿波大杉大明神開帳○七月より本郷
弓町より水戸藩邸に入る如信上人像開帳宝物多し○七月朔日より浅草
寺内心福院より越後頸城郡居多社大国主像開帳宗居菴日の丸の名号を授せり
○八月御系図の例に物蔵を建らる○八月谷中延命院住持日道僧伴

七月朔日より厳科に處せられしと雖ども○十月朔日伊豆大島焼二日江戸中
降雨○十二月挿花の師笠義流乱れる事八十八才翌年七月門人に浅草寺奥山に碑を立る
○後に昔物語成る事年表子孫大人の文あり
浅草田圃立花屋御下屋敷に大郎稲荷社利生ありしより江戸
近在の花売家皆集まる賑しく（俳諧集に多く載せ後に朝日十吉世日午の日開門之）翌文化元年に
いろ〻絵馬に奉納物山の如く道路に酒肴茶店を列ねて殆ひしゃ一二
年にして自然に止みぬ（国会の時『絵馬かくら』ひろく人を大郎さまの霊験と為す）
○群書類従板行六百三十六巻（塙検校輯義板より此年より迄に未成）

此年間の記事

小金井村の橋寛政の比い流る人ありし由古松軒が四神地名録に記
しぬ享和の比より猟人墨容斎集ひ〻毎年遊覧の所とせり

百ばかりの冊子一枚摺
多く刊行せり

きく濱るもの河水ゆきさく雲はなのひくまもの　千蔭

○蘭画を学ぶ人今多し○山東京傳曲亭馬琴ゲ漢本を双帝行れて色
彩筆を揮ふす又京大坂より画入漢本新作ものまを揮ふして江戸へ下せり
江戸戯作者ハ式亭三馬・六樹園・盛小枝の繁・絳山翁又・感和亭東武・
十返舎一九・振鷺亭・演劇楼焉馬・高井蘭山・山東京山・百樹・芍亭・根
柳亭種彦・梅暮里谷峨・神屋蓬州・南仙笑楚満人・東里山人・東西養
軒北・其外多し　京大坂作者ハ・栗杖亭鬼卵・合浦亮月・優々彼・柳滝・文鷹・木の編色
画者ハ・石田玉山・川川人二世・岩田玉山・青陽・丹花園・峯・丹羽・施溪・
合川・浪和・杉野・森宝・清・京川・芝秀・速水・其陸・秋水・北斎・為・画人・
ども自ら著述のものを数十部あり文化ふりて江戸の稗史を京大坂ものて著ものの粗ものく
仕組むもの行　江戸深世絵師八菊飾北斎辰政　始春朗宗理・雅号多　後小林戴斗又為一と改　歌川豊国・
今豊廣・蹄秋小馬・雷洲・葉画を　盈秋北斎・閑く楼小嵩　後柳川　小書　深絵
上手

菱岡北溪○北尾慧秋畧画式と号し深世絵の畧画を工夫せし彩色物
の彩筆を揮ふ又○深世絵師二代鈴木春信といひしものの長崎ものより
蘭画を学ひ後江戸ものり世ものられ名を司馬江漢と改む又銅板を日本
ものもの創せるも此人の功之　○式亭遠山水の遠系を画ものの一枚絵を　深絵と云今式亭ものの
近世奇談考骨董集二部の随筆世ものられしものもの裁ものものもの
戯作者各随筆をものものもの事始まり続れども京作の作ものの無ものの続ものく
野鄙ものるものの多し○原舟月雛人形の製を改て古今雛と名づけ世ものの行
もものり○京和中みやれものん業塢といふる人書島村ものの花園を設け四時
の花を栽ものく遠賞の所と為せり奥州の人ものく稀小平　といふ江戸ものり出ものの小住し
天保の始終れり　業塢外或人名つけて号　宣といふて文字をいとものく改ものとのり山林業を
初めきものるもの江戸園中ものの家を栽て子の日ものの日ものの裏を作ものるものり文人ものど
門の奇ものもの　われもものるものも法ものくものものの裏ものものの作ものものものものもの　千蔭

[illegible]

[illegible]

或人の説に此地の書名を多賀屋とゝの書豪民多賀三郎左衛門角五郎門右三郎の人住るゆゑ書名に白鷺の後法号をかりしこと

○北濱手拭 初れ手拭店多く出来る○鼠甲 價次第に貴くなりて紙にて

賀狀の摺筆を製し○鶯籠の戯 昔は墨を紙を切接て串を四ッに割て

矢羽の如くにして鶯を写しそれを玉藻の葉乃姿を九尾の狐に習ひ酒

顛童子を思ひ付るの類まで[illegible]寛和中都樂といふ若衆キマン

繞とゆる目鏡を拵へ[illegible]ヒイトロ（粉白の絵をその人自立に働らくするの工夫

[illegible]写し絵と号して見せる是より以来世伝わりて巧みをなす

[illegible]此頃樂今を[illegible]永元年七月中旬○山谷町八百孫右衛門が

料理仕る深川土橋平清下谷龍泉寺町の駒寿司の文化年中より盛ん

文化元年甲子　二月十九日改元

二月四日より伊勢通院内福聚院大黒天并法号開帳○二月十七日夜巳の刻

西南より東北へ白き紙雲出る○三月朔日より深川八幡宮開帳○同月五

日より洲崎弁天開帳○三月より護国寺観世音開帳あり四月十三日

迄人北斗本堂の例に於て百二十畳敷の絵紙（半分の遠磨を画く

○三月十九日より田向院にて日蓮祖天王霊宝開帳○小日向大日坂妙見

院大日如来開帳○三月十九日後藤氏十代桂宗辛六十五才○四月十五日

妻恋稲荷の社開帳○同日より浅草清水観世音開帳○四月廿日より

三日の間十一代目中村勘三郎座にて芳野狂言興行寛永元年より

八十一年あり

○六月朔日夕七時俄に大雨降霹靂大雨にて人々魂を抜く此時高羽下あて

中（巻上望日死獄
江戸川より出る）○八月四日俳人素健卒（二十廿六歳川
去信ちの弟）○八月廿二日画人高嵩
谷卒（七十五才名一雄号雪舟谷
浅草西福寺に葬る）○八月廿五日云々一卒（宇三才俳諧を好一方人に能家
奇人伝の編あり谷中瑞林院に葬
○浅草藪の内南部駒の市毎年始りて尚年より止む是より後八月頃迄
蕃内（若狭）○十一月廿二日画工佐脇嵩雪卒（名貫多称倉次号中岳堂浅草
誓願寺中村名院に葬る女七英之と
号る画
世とくに）○今年諸国老熟之

文化二年　乙丑　八月閏

二月十五日より根津権現祭礼十一面観世音開帳○三月八日より谷中一
乗寺祖師開帳○同十日より駿戸香取社境内にて京都西鶴清涼山金
毘羅権現開帳○同十二日より田向院にて青山善光寺如来開帳
○同廿三日より永代橋にて玉川弁財開帳○同廿八日より駿戸東叡寺不動
尊開帳○二月芝神明宮境内にて勧進角力あり此時同十六日八月月奥行
日水引といふ角力取船の若と空嘆ふ及ひ四つ車一人加勢して大勝をれる
ふ〻く闘諍ふ乃〻○三月中旬京都芝居桟敷ふく出花の女あり
芝居をみんれを吉兆と云ふと云○四月朔日より南ふ川海雲る千絵荒神
開帳○五月俳師神田菴小知西国巡礼の相戸ふ於て八十八齢の賀延を催く
仙人沈潼朝霞の氣を吸て長壽し我ら

有雲や吾養ひの生々花　小知

○六月七月両〻○六月十九日生麦村辺の川端あり此時人骨
出る〻〻縣是古戦場の有る□□の善悪ふるれば枯骨を
浅草寺龍雲院に収め墓を築しふ法名成就院と云ふ〻して七月より
来詣群集する事縣より（三月廿六日より来詣自ら止る）○八月七日象刻家島蓼斎卒（年不伝
墓ふ本願
○八月廿七日儒師神谷東溪卒（名謙称弥右
田南孝能ふ工葬る）○十月十七日書画陶金

定河津定通卒（法の如く葬式を葬儀し人々の賜餘小録の編あり）○十一月深川三十三間堂再建成る（延享年間の事）○本曾流名所圖會梓行（秋里籬島著　為村中和画）
○十二月廿五日西人井川雪下園卒（名貢孫深云清坂本出光之丞　葬式）

文化三年丙寅

三月より永代橋ふく成田不動尊開帳○同月より護国寺河内の国葛井寺（十一面千手）親世寺開帳○三月三日江戸天火西南より東北一飛人
○三月四日昼九ツ時芝車町より出火坤巽風ふし七丁目田町の通り三田薩摩家屋敷浦賀芝辺金杯（傷上ちハ異隅斗）神明宮前門前宰田川町通り左右出雲町行川町通教育屋橋御門内外本櫓町三丁目堀材木町京橋より日本橋左右江戸日本橋小伝馬町常盤橋内門外宝町宰町通り西ハ縁金町より三仏町雑色町伝馬町筋遠藤陸近東ハ堀留町彩雲寺町彩材木町より堀町葺屋町芝居町産ハ除る天ハ富沢町橋町辺横山町馬喰町辺神田川を越て西ハ佐久間町松永町和泉橋御徒士町通り三味線堀廣徳寺前通りより東本郷通近東ハ浅草御門外より彩堀通り元町越東本郷通り谷徳寺の辺近焼亡此町内包まれる武家町家一宇も残る事なし翌五日の夜四時ふいりて漸く鎮まりしは大凡隙数焼九里弐里半幅平均七十丁備後藩邸八十三町古院六十六寺名ある神社二十餘ヶ所町数五百三十余町と唱ゆ又焼死溺死千二百餘人という彩火ふいのひし賤民ハ救の小屋十五箇所人建て与ふ憩ハしめ食物を給る此余の貧民ハ米銭を与ふる（此長途中ふみ拾を）此度貧人或い物のふしを賞ものの（ひりの）盗賊行れ物を奪ひ強暴の人を傷ム此火災の時の雑説曳尾庵の家衣ふるしく云る也
○四月廿日六日の夕二夜三日田向院にて焼死の輩供養の事を

今せらる○四月朔日儒師古屋昔陽卒名扇称十二郎七十二号羽桂林ゐ墓ハ
○辯秀堂何某矢大夫を信じ金光明最勝王經を書写し清浄の地へ
納んとて上へ奉べき石を求ふそうして亀の形しる石を得り
竪三尺横二尺江の移へ年納ハ○四月廿八日算術師小川秀蔵算昌卒中野宝泉ゐ
葬ゐ○七月大師の系弘法大師開帳○十月流球人来聘一宴讀谷山王子
副使小禄親方流球人比嘉親雲上十二月二日終れり此年関東ところ〳〵寒冷烈しく雪
杉親雲上老年病終りしとい不言梅○十一月十三日夜五時葺屋町浅草
大四ゐへ葬送の時いとあるまゐ〻ゐ
のより出火して堺町より町大坂町京橋ゐ町紺屋町飯売町迄焼る
家
両度芝居焼る氏火の芝居打出しの太鼓と共ゐ焼出ゐ○大坂新町の石垣崩れ
雷混雑いとん方奉ゐ流球人列者の日あり
といふ者江戸へ日本堤ゐて盗賊ゐ遇殘者親世吉の利益ゐてゐの紙を
ぬれ手ゐ
ゐ羽文化四年法橋周南ゐ甚図を画ゐ窟ゐ揭ゐ

二月四日芝二丁目より出火脇坂侯御孫家類焼この時町火消の大喧嘩あり

あゝ近比深世後ゐ改ゐ○今年米穀豊饒ゐて価下落ゐよつて十月市中分限ゐ應じて
買米を命ぜらる○十一月十三日子孫師丸毛權左衛門卒名利通牛込ゐ町浄雲ゐ葬ハ
○十一月十四日儒師堵允明卒号洪園称十太夫巣鴨東福寺ゐ葬○十月ゐより菅原所蔵書
画展覧の命を得ハ落款を深し紙ゐ鑑定を小紙ゐ記し簡ゐ
後ゐ記ゐ○江戸図副説写本成大橋方長著

文化四年丁卯

二月十四日明六半時東より西へ光物飛ゐ○春雨少く梨風の日多く
火事ゐ○二月廿八日より田向院にて華ゐ興行ゐ勅院不動尊開帳廿三日江戸へ到着の日構中と号ゐ
の幟珍錦杖法螺の貝を持ち延ゐる事九千人計り次ゐ山伏数十人兜巾袈裟ゐ二列ゐ列
ハ次ゐ大ゐ斧を持ゐる山伏廿人計り法螺を吹く次ゐ山伏八人獅子神楽ゐ舞ゐ其次ゐ住
職壇ゐ乗り伊達ゐ打物を持せ供ゐ行列ゐ中ゐ異形の出立するもの多し近来是程
ゐ江戸への開帳ゐ去年の琉球人の行列より殊ゐ美麗ゐ多し大後楽と
号し矢来の内ゐ火を起し山伏大勢列火の上を素足ゐて渡り行者代来ゐのゐ見物
群集し境内混雑して怪我人多し程なく此事を止られ

○二月の頃より品川宿裏向南の方霧屋何某といふる驛舍の抱妓盛女一人（今○サキ殺経府中の産）
といふ天衣粉刺丈熟天うり 六尺七寸容色よりすぐれて遊客多く此家日夜
繁昌せり（後二年を経て廢れ方伝已の事由を考ふ衰殘浅薄し改め淺草新鳥屋の向へ大女の力持と
号し看物あり出る長碁盤をひき蝋燭の灯を消し口斗俵（葉を口に入れて交ぎを
書あどしるる又曲芸廣く賞賞せり）○三月朔日より永代寺まで相州稱念補陀洛ふ勧る大日
如来文覚の像開帳共同ふ多く宮根山権現開帳○三月九日戒法者車仙矢
楚満人卒（芝人光院ふ葬る）○三月十日より大塚護國寺観世音開帳○四月朔日より
湯島社地まで大塚大慈寺見耕菴火防造酒地蔵尊開帳○同日より麻
布宿社地まで都築形折岸村法華堂神開帳○四月朔日より浅草八幡
宮町大仙寺まで下総中山法華寺奥院祖師開帳と共ふ京都頂妙寺二天
王開帳○当夏ふ國橋辺大川多涼出○六月朔日二日大雨金銭傾るかごし
○六月廿日中平井村百姓文吉とふの逆井村の川面まで蜆を取るとて

義の内ふ日蓮上人の像をかけて平井妙光寺ふ納む○七月十九日より深
川淨心寺多く多延山七面明神開帳○九月晦日より猫死する事夥し
○八月朔日より廿日の間浅草観世音開帳（今年法華修復成る会社堂の前まで
来る）○八月廿日より田向院ふて下谷通新町國通ふ黄金観世音開帳
○八月六日算術師荻田権平定資卒（号雄山 下谷西窪ふ葬る）
○八月十五日深川八幡宮祭禮（隔年ふ法しけるち十二年前より空虎まで休みしふ今年ふて復ふ出る者の所ふ集る記ふ
雨天ふて十九日ふ延る同日産子の所ふより踊り邊物おて出る江戸中い
ふ十五ふ近在より見物ふ出る宮ふ所霊巌島の出しねり組永代橋の
東詰まで来りし時橋上の往来鎖関群集の人岩中より深川の方へより
ふる法三宮社を崩れ崩しふ人数ふ崩れて孫より来るものもつんとする
事多くいつ上ふ事なりて落ちて水ふ溺る助りしい稀ふ一人ふ下の方

屋とありしかども九千五百人餘といふ此時江戸中に焼死せし物ふ出る
家族の若干大方あらざれば新大橋の通路止りて西國橋を渡り逢ひよ出る
りの昼夜引も切らず　官府より厚く令ありて水中死骸を引揚し
め男女若少を分ちて大張ふ積重るを家族為るを来りてあくく野辺
送りをあれ悲傷のさま目もいなてられぬ事ともなりしとぞ　溺死の家族来る
らの時類朱爰の保格とかつる　いと数の物あるべう
多紙ふ委しく記せりとかむ　○八月廿二日　九ツ時過井橋辺古松大枝折る
○八月氷川明神社社造営より年ひさるふ崩れり○此比西の方ふ常
星出る○脚夫地響動あり○一石橋の橋杭嫩木の樣なりしが一面ふ茅を
ふき雑草茂せば○九月三日酉の刻ふ来より東一光り物飛ふ大サ鞠位
ゆく青色なり○九月十八日秋田侯神尾孫兵衛庭系ふ三河所二十日二十日
より子供お撲を出る○九月廿一日青山熊野社現系孔出し絵物出る

元後休む○十月四日茶人川上不白卒　九十三才号孤峯又田歌舟始不蕉と云千の
谷中安立ふ墓ふハ天明元年生ふ茶ふ宮むふ中央ふ石燈籠を置大袋ふ形法と縫
先方ふ戒号を刻るしふ碑あり右ふ雑塔大石の如きものの剣を携ひ上ふ巨石をいてきはる
石像を造りふの
友ふや知らず　○十一月高輪海上ふて蠱犀と云海獣を捕う
○十二月一日官儒柴野栗山卒　七十二才称元輔号古愚大塚氏庶出ふ養ふ
鳴卒　名天祐称惣右衛門三田ふ居るふ葬ふ　○十二月晦日夜永田馬場火事
文化五年戊辰　六月閏
正月九日十日大雪降五十年来の雪とりふ不ふ折る○月廿一日更人竹沢
蓑渓卒　名惟房後ふ名を変るふ葬ふ　○二月朔日夜大雨大雷○二月十三日狩野養川院惟信
卒　年六十六　○三月十七日より市谷柳町光徳院観世音開帳　又文化七年午の四月も開帳あり
○本所本佛寺鬼子母神開帳○三月七日更人内田陶丘卒　玄對の男なり　庵尾光林寺ふ葬ふ
○日蓮聖ふ従ふ伝日野資枝ふ御寄の碑を建る　今年の法縁ふ常州水戸産江戸深川安宅の住人
保延真とりふ人建るふなり

来る日々一の里に花の氏を残雖集て住家を賞するに或の分あるとも一人

為れ為く咲そへ花の雪とひく名ふ日々の里を少家とす

○四月九日俳人杜露庵多賀卒 紫沢氏文塚 光源院小墓 ○五月十日より洪水大なるに依て諸会

所隆寺祖師開帳○六月初旬より雨繁く降り十六日より十八日迄江戸

及近国洪水溢る米穀價騰し○六月貧民に救米数を下し賜ふ

○閏六月朔日より田内院に葛西宮田稲荷の開帳○閏六月二日俳優尾

上松緑六十四才田内院に於て昔の俳優小さぐ小平次の幽魂を吊らひて施餓鬼

を修せむ人々群集する多勝しなりて後彼の事を狂言に取組身形

しける小見物出を為せしとよろこぶ事なりしに崇ることを忘れて其

后八月の末に名を唱へ此物言を使はるるに○壬六月十八日より

廿日迄大雨降再洪水溢る○七月田内院に野州那須野光明寺玉藻

社開帳○七月廿一日夜に入雷少し鳴雲六時に大雨雹を降らせ如

○七月廿日昼九ツ時より南大風雨家屋を損じ怪家多し豆腐桶船

七十除縄覆る又酒船入洪絶て市中酒乏し○八月田内院に於て昨年

永代橋水死の追善一周忌法事修行○八月ふいりても雨繁く降り七日

八日大雨江戸洪国洪水溢る○九月二日加藤千蔭大人卒 七十二才本石田内院

○十月芝金杉円珠寺七面大明神開帳○十月四日この日浴湯に入れば寿

を減じ又は即死するよしにて世に伝入湯する事多し元文元年の比もかくる

事なりしとぞ○十月十日書家細井錦城卒 名知雄称義右衛門廣澤の孫なり

○十二月十九日書家服田赤峰卒 名順称郷右衛門 麻布園林寺に葬る ○彼巾のうりふることいふ物

をうるなりそれ

文化六年己巳

正月元日大風雪六時巳左内町より出火して方町四日市小伯町照降町

新橋木町堺町葺屋町吉原居屋敷波町元濱町辺武家方迄
ゝり出国業研極笑の会諧ホいゝより飛火して本所辺焼亡し夜九ツ
半時鎮る○二月雨降ること日ゝ烈風ありて火事度ゝなりし○二月永代橋
新大橋大川橋爪貢人止ゝ蔓延田新橋伸間引受ホ成り流死止む
○二月五日夜九時牛込火消屋敷より密出の不逆焼亡武家方多焼る
○二月十日小日蓮里妙隆寺祖師寄帳○四月より行徳願る弥陀如来
開帳○三月廿四日弱迦国宗寺ホて八百屋お七が百廿七回忌法事の為細雨降れども来
清聴集歌一斉群妓の歌集作出する ホとなり ○四月二日儒師伊東藍田卒名毅年祢金義七十八弟弱迦
敷能岳と号ス 吉祥寺中洞彩ホ葬ス男子
然七男ゝ ○四月より七月迄江の島本宮岩屋弁才天開帳あり江戸よりの
参詣歌一江戸ホも不ゝ弁才天開帳なり ○五月六日儒師泉豊洲卒
廿二才祢斧太郎名出建 ○六月五日より田向院まて常州真壁那珂玉郡祢
浅草光明寺ホ葬ス

開帳○六月廿一日官医桂川南周卒 九十六才名国瑞号月池老人 二本板上行ホ葬ス ○六月初旬
茅加在矢場村ホ院塚の和一木桜ゝ花多く咲り江戸ホ見物人多し
○七月橋場祢明宮の内ホて武州御嶽山深雨 ○七月十九日より本所
本佛寺ホて甲州石和遠妙寺ホ祖師開帳○七月浜川宜雲寺ホ英一
蝶の墓塚を築碑を立る 市野光彦文を撰し英一珪これを建る
夫の剃髪廿四日迄大風雨家屋を損る事駕く火の見の半種を吹落ス
伊豆房総漁人多く溺死ス○八月十日者成田朝辰玲ゝ森八幡宮境内
ホ狸塚を築く○今年洪国豊作ゝ○九月朔日より二十日の間牛込岩
戸町南義院弁才天開帳○浅草報恩寺田系町向より今の呼ハ稱る
此時本郷ホの地所賤ゝ○九月五日詩人谷麓谷卒 八十七名幸脩祢十次郎画人文晁の父ゝ
浅草源宗寺ホ葬ス ○九月五日儒師篠本竹堂卒 名廉祢久二郎 四谷寺ホ町栄林ホ葬ス

○湖市日記三卷写本成　右田中祖先生公用ヲ以テ○十一月三日四日大雪　十二月迄解氷
五川の辺往歴あり（ものの紀行）

文化七年　庚午

正月廿日より浅草大仙寺ヘ依渡塚糸根寺ヲ祖師開帳○同廿七日物者家
小野蘭山卒　八十四才（一説ニ七十七才ト称ス）浅草ニ住居ス小石川ニ葬ル　○二月廿五日より平河天満宮開帳○三月七日より田向院ヘ越後國飛宮ヲ
大日如来開帳○同十日ヨリ浅草五泉ヲ移シテ豫念松葉谷長楽寺祖師開帳
○同十五日石原徳水奔牛天開帳○同十三日より十九日迄浅草唯念寺ヘ同廿一日ヨリ廿七日迄
溜池陀泉寺ヘ移シテ四月朔日より七日迄浅草徐念寺ヘ
下野高田山如来開帳○三月廿日ヨリ世尊寺ヘ移シ法隆寺本住大文死　象地本
某寺ヘ　○四月朔日より浅草柳橋稲荷明神開帳○同八日より深川法華寺ヘ移シテ新
曾我祖師秋迄如来開帳曼荼羅ヲ拝セリ○五月十一日狂歌師萩野
屋裏住卒　七十七才金吹町ヘ住ス狂歌大家の表住と云ヲ世上家
称の孫ヲ以ヲ称ス　深川法禅寺ヘ葬ス　○六月十五日より田向院ヘ

嵯峨清涼寺釋迦如来開帳今年八例より来請多し○六月廿三日廿四日向
金覚寺ヘ移シ清正公二百年忌供養開帳○八月朔日より護国寺ヘ信
州座光寺村元善光寺如来開帳　別当　座光寺　○九月十九日加茂遠塵秋卒　七十七才この
藪の内ヘ丹青を善し絵文を以て佛像を画く人ヲ服部坂発ヲ寛政八年成就し三百五十
羅漢ヘの像五十除幅あり大典禅師これを賞して他ふれし文あり尚ヲ拙発ヲ
○十一月十六日東本願寺御堂再建上棟の式あり　文化二年災後ヲ年目ヘ上して成就せり
供物飾物ヘ同じ警ヲ以斗り多り　今日来請の男女ヘ門より羣集し
棟梁を石原志摩といふ　○此冬マグロの魚漁ある事稀し総豆相の三浦より
一日ヘ一万本を獲るといへり○十一月十七日儒師諸葛琴臺卒　名蠡号鬢髪
下谷養玉院ヘ葬ス

同　八年辛未　二月閏

舊冬より雪降ること正月十五日雪十七日大雪○二月廿四日昼四半時ヨリ
浅草茅町二丁目裏より出火表通りへ出し裏河岸柳橋ヲ八樓迄焼九三
町ヘ一町程あり早夫度くなるヲ○二月十一日契風申刻市谷谷町会佛坂

より出火四谷赤坂麻布西窪飯倉赤羽橋上ル支院三ヶ所焼亡ス此災よりて死亡の者二百餘人と云ふ　○二月十三日村田春海卒六十六才錦織豊一郎琴後翁称平四郎と云国学ふかし　私家集世に弘く行はるゝ事ありと云ふ

○二月廿八日より半沢和主水権現開帳○同二月十日より浅草社内観世音開帳○同十八日より護国山円満寺秘仏弘法大師観世音開帳　居士井丹後守繁一　○同晦日より牛島長命寺弁才天開帳

○三月十日より池の坊専好宗家没岩本実相寺宗師開帳

○三月十六日より永代橋辺戸張明神九郎権現開帳　別当顕光寺

○四月初旬より風邪流行　「人のあり小袖の裾拭髪くちあり風さへ送き山の手　蜀山人

○四月朔日より田内院本覚院妙未并浅倉天満宮開帳○同日より芳町茶師内ヶ彩窪郡次上観世音開帳○四月十日永代橋内小豆長の反や弟後縄蔦れて俄に傾きて人物人怪多く即死二人と云ふ○保川仲所蠶繰葬といふ人天鬱紙りとのひとつる物也とて獄屋本を

造りて送る○四月廿六日牡丹師千種庵烟海卒五十一才称山中要助号霜翁と六吾林翁号今戸称福寺ト称ス

○五月十日より田内院より浅草観音井八幡宮開帳　於落あり中途ニ止む　○同月廿三日より浅草彩姫山形ヶ市ヶ常泉大塔村山形ヶ大蛇侍従親鸞上人像開帳

○七月十六日より柳橋神明宮内天満宮開帳○七月四日更人晁有輝卒　稲町ヶ法名称ス

○七月廿一日儒師宿谷室ヶ卒名愼称表之介白泉ト号ス　○八月上旬毎夜暮時小の方第星飛出る　十旬ハ西ヨリ東ヘ流る　又晩方ハ東ヨリ西ヘ流る　○九月三日ヨリ本川寺宿彩武義孫と云ふ旅宿より失火烈風ヨリ〳〵ク方例五丁程焼亡○十月三日儒師廣見量卑卒名九称二郎右衛門六十二才　俳諧ヲ松浦ト号ス

○十月廿八日東本願寺法堂普請成就迂仏供養院傍ら楽を自作諸人騒〳〵今年開山五百五十年の遠忌なり○十一月十六日暮六時ヨリ南伝馬町三丁目より出火北風ヨリ中通り一出河岸一焼校木町河岸迄出夜九時鎮る凡十二町程焼亡

○十二月二日書家荒木適斎卒名勉之称九山長平ト号ス　○十二月十一日夜九時ヨリ浅草御稲

荷裏通りより出火西北風強く新堀河岸川町より三筋町より越中殿前なる萬福
る唯念寺焼る○同刻本所川橋向より出火鮫洲の辺まで類焼す
○江戸歌舞妓年代記刊行十五巻（立川焉馬作三座芝居の基立よりの記録なり　今年より十二年迄追々に市行はる）

文化九年壬申

二月十五日より羅漢寺にて開山念持仏阿弥陀如来開帳○三月三日より渋谷
長谷寺にて京清水寺観世音開帳（京清影しく山門諸商人役や形を列ぬ）○三月五日より洲崎弁
財天開帳○三月より池の端吉祥寺にて佐渡一の谷妙照寺祖師開帳○三月十四日
より押上春慶寺普賢菩薩開帳○葛西木下川浄光寺裏門の通桜樹を多
く栽る○四月廿六日三島自寛卒（六十八才名景雄称吉左衛門三島町に住居学和歌を好む又能書なり浅草新堀善照寺に葬す）
○五月十八日より芝愛宕山にて下総葛飾寺なる[　]開帳○同十八日儒師山本北山卒（六十一才名信有称喜六　小石川茶町本念寺に葬）○五月廿五日観相名人石竜子法眼卒○七月大水

ふく切れあり○七月八日法如英慶和上遷化（渋谷村宝泉寺に葬す　世寿）（近世の碩徳也）○八月廿七日
銭化若市場通笑終（浅草観音寺に葬す）○八月東本願寺中徳本寺にて越後浄興
寺宝物を拝せしむ○九月巣鴨染井の植木屋にて菊の花を以て人物鳥獣
何くれとなく色々の形を造りて諸人にみする江戸中の見物日毎に群集し
て見物しられ年毎に盛になり九五十余に及ぶ文化十二年迄はやりしが
夫より後造物は止みたり（此時菊の番付案内記絵草紙の類あまた行せり）

抱一上人植木屋何某が庭中の作り菊を識りて
　見劣りし人のたて後や造り菊

○九月三日下総国相馬郡藤代宿百姓忠兵衛娘とめ八才にて男子を生母子
恙なし○十一月四日（昼八半時）大地震（所々土蔵毀る用水桶の水こぼる所あり　品川辺殊に強く家倒傾損人多し）
○十一月十七日書家田中鳴門卒（五十歳なる　に葬す）○十一月廿一日夜五時目黒龍泉寺村より
出火南烈風にて青山新町へ火移り千駄ヶ谷一廓多く焼亡夫より麻布の

風ふく事り田町一丁目ハ飛火する事百餘軒近辺ハ丸町山の宿の辺迄類焼し川
越ゝ市ヶ谷番場町の辺少し焼る　吉原丁仮宅田町聖天町丸町山の宿三ヶ谷
深川ハ六ヶ所ハ八月元地へ引る
○此秋芳町二丁目三丁目ハ西の裏ゝふ上水の流り水引て流を引
ら人工を以て簾と号する一丈五尺幅を習ひ左右ハ竹を作り四時の花木
を栽ゝ例ハ茶店を出し往来の人乃休ミ所と為ル天保の始より廃ル
作山より流ル清水の玉をなれ落ル事ハ月の宵　習山人
ふるそゝるこゝも芳羽の雪ゝ　縣書
○十二月十九日書家箕田牛山卒　号福数　麻布崇厳寺ハ葬ル　長男ハ市猷吉名潤号徐山と云　○十二月歳
寒ハ國川氷あり○十二月廿九日夜五ツ時前桶町より出火西ハ裂風市谷
ゝ町より京橋竹川岸金六町迄焼亡○此ハカラン糖とゝふ糖のくさり
貫街を焼る　蛇の目の故名ゝ物商ゝ管笠をゝり紙袋を斧負ハ声ハ
カランドウと唱ふ此ハ浅草ハ黒船町ハ舗を出せしゝ程ゝ廃ル

文化十年癸酉　十一月閏

二月二日夜九時ゝ三河町武丁目表通より出火して武家方四軒程三河
町一丁目三丁目皆川町永富町松下町鎌倉町新草屋町新焼夜明て石
焼る○閏十五日夜亥半刻下谷御成道黒田豊前侯の南隅長屋より出
火類風ふして石川侯御屋敷を吹越し丸一茶店の裏ハつきて右ハひろ
ごり向例より仲町南例殊ゝ焼失池の端表通り加賀侯長屋迄西ハ三枚橋
向料理屋松坂屋の例ゝ東ハ呉服店松坂屋の例ゝ上野町山下を焼る
○三月より浅草観音堂ふく常州康岡左神宮不断経所庚徳ゝ赤童子
開帳○三月八日より池の妙音ゝふ二の江妙勝ゝ祖師開帳○三月より隅田
川木母ゝ市ゝ梅若丸像開帳○三月菱垣廻船仲間十組問屋株式
定る　この時の人数千九百九十六人也　○三月廿日より大久保西向天満宮開帳○四月朔日より今
戸八幡宮開帳○五月九日より浅草寺先市覚ゝ祖師開帳○夏芝愛宕山

抱現用地○六月愛宕山別當因幡法橋長鬚會あり秋田侯の侍醫大関
大中といふ人和この藥をもき老人を集めて書画の會を催されあり
七十ばかりの翁を始めとして皆白髮なりけん
○六月廿日より九日の間九代目森田勘弥壽狂言興行○六月廿日狂歌師手柄
岡持卒　七十九才　平沢氏名常富号月成　在名高三次深川洋々亭中一玄院主人
○夏淺草なる老女兵乙の池に水車を仕掛人力を
用ずして人形を踊らせ四時物を呼ぶに見せ物出る○六月二日より田向院にて
常州筑波山藥蚕影山權現用帳○六月初旬より蕎麦を食して死るといふ
俗説行れ蕎麦粉更に售ひ難し○八月八日書家大槍重雅卒　淺草西福寺中
宗心院に葬る
○十月廿八日法橋五松崔林翁卒　若年出羽国米沢の人寛政中江戸に来りて京師に
住して坊城菅亜相君に菅家の学法を授り菅家の
姓を名のり五松を氏とし再び江戸に帰りおのれ池を住しまたを教授す今年七十才にして卒す本
形を中独卒ちに藥代文化七年菅家学則浪義一巻を著して拝ふ
○十一月九日明六半時東より西方へ大二尺ばかりの光物飛ふ　武州生麦村の辺落ちて畑
の如く大なる野蒜の如き類ふ

しく肉翼ありて
○十一月廿八日夜九時過品川宿相向出火三町の除焼亡せり
○同月廿九日夜宮松町西側より出火烈風烈く竈河岸に出火烈風ふるひ
和泉町東側より大坂町堺町葺屋町芝居雑煮町より京物町
稲荷の堀酒井侯邸中きに至り翌朝六時過鎮火す○十二月二日巳六時
より花川戸町去年焼残りの家に吉妻橋際迫焼亡昨夜五十除日雨
くに小火あり○十二月四日官儒尾崎二洲卒　六十九才　名孝肇　称良介
大坂出藩島小藩代
○十二月六日書家松會平陵卒　七十三才　名芳文称三四郎
淺草仏安寺小藩代
○吉原焼町八年以前切
ありて仮りに今年地主　娼家の居宅囲ひとみくより町名を唱ふる事あり

文化十一年甲戌

正月十一日夕七時過より俄に大風吹来り和泉家屋を損ぜり翌日初卯巳時戸
妙義社東清瀧を祭りけるに暴風小家根舟幡牙舟数艘ありて人多く

死す　亀沢町にて侍二人空中に火上ニ出る　○正月十四日芳時八代洲河岸より出火
○正月廿五日亀上杉田亀五郎　号清風館鉄舟迎上物店　○二月深川砂村元八幡宮
より後前四五町の間雉木の八重樹を栽ふ毎夏遊観多し
○二月二日より十五日の間河豚弘法大師開帳　○三月朔日より永代橋成田
不動尊開帳　芝神明大提灯米俵造り物ホ駕しく移り代り来納　○三月三日より田向
院にて伊勢七加一板行して夏歩行多しとぞ
雷不二踏　○同八日より押上法恩寺にて京都國寺祖師大師天皇諱女釈
尊清正公開帳　○三月十日書家佐野東洲卒　名国彩　正定寺に葬
の間浅草観世音開帳　日より一の権現開帳　三十三年目始開帳　○同廿日より御
義の八幡宮にて狩文殊権現開帳　○四月朔日より浅草金王八幡宮開帳
○四月彩日より谷口法院稲荷明神開帳　祐田本永町小祢町より天王九天社より移
にて造りし九の顔と縫の顔とを納む細工人

外月の門人　○浅草小行にて彩を用ひそして
舟水あり　○　自然水佛くホの釜七ヶ所とい　○同日より浅草金龍院にて安鎮世音開帳
○同二日より中野宝仙寺にて動尊開帳　○同八日より四谷新宿にて安稲荷本地十一面
観世音開帳　○同十九日より西新井弘法大師開帳　○四月より七月中旬江戸
及諸国大旱魃　都下門ホ松林を建て疫を禁ふ　とい初春のうちし
元卒　名在耕雲門人より今年七十八才赤坂法あり　○六月十八日百御流華道の師耕
ホ義に分ホ三千人ホ有りといふ
垂井八幡宮にて権現開帳　○七月朔日より田向院にて河州
を始め勧化の為武家町屋を巡行す　○七月より徳本上人ホ石川
伝通院にて諸人ホ十念を授ける等機の系術聚集駢
○秋護國寺観世音開帳　市谷辺　○十月廿日夜上野所本坊火　○十月書家
田中玉峰卒　名ホ則　林収蔵　○十月ホ浅草にある奥山に謎坊主とい小名ホ
の盲坊主ある在ホ有りて人ホ謎をかけさせて問答ホと、若解ぬる時ハ答ホ人ホ
つくるとぞ傘水俵菓子器物ホ之を師り者ホ謎ホ答ホれるるホ多し　ホ奥州二本松の産ホ

て名を書るの人書の如く継ぎ書すべし解くべし是を学びしるべの白毛出でしれとこれ
出及びさうしあり　翌年実母うけ給ふ後妻の霊を遠を雪さえとけて笑ふ山く　曳尾庵尼竜

○十一月七日儒師中島豊洲卒　名幹　称周吉　十年八月　○十一月十七日俳人建部巣兆卒　号移南　秋香庵
浅草日輪寺に葬る　寺は京の雲村と名づけしあり　○十二月七日夕七時聖堂の門学問所火
彼ふ仏寺の黄葉の画賛多くあり

○墳墓図志二巻写本成　一名秋風抄　作者詳
江戸諸人の墓碑をあつむ

文化十二年乙亥

正月吉十月六日より雪霽る　二月十日迄　大雪や江戸と越路の入さびし　芭蕉翁
廿八度まで　時人毎年ちぎりあるべし

○三月十一日より中山法花寺奥院祖師 [ ] 光開帳　○四月朔日より
薬師尾天現寺毘沙門天開帳　○同十五日より江の島上の宮弁天開帳　江戸より来詣
○四月日光山二百回御神忌御法会　○六月朔日より田向院にて秩父大
日向山大隅寺姫塚大士再帳　○六月二日抱一君尾形光琳の百年忌修ら
○六月廿五日書家渡辺東洲卒　名彰　称文平　浅草祝言寺に葬る　○徳本上人伝通院本堂前小

満ふ大日堂再造　○今年ゝ聖ゝ朝鼎の異和を院ふ子孫文政の始を都下の貴族
園ふ栽一盆ふ移して延命を設く　中ひろ〳〵牛ひく花かさうり　遠樵山人
○七月朔日ゝ田向院にて甲斐善光寺如来開帳　○同十六日より下谷徳大寺
薬師利文天開帳　○七月廿一日長遠寺にて総名谷法華祖師開帳　○同日より
浅草金龍山ふく出羽国湯殿山黄金堂於竹大日如来再帳　天宝ふ茶釜等ふ寄ふ子孫の
用ひる　○十二月雨森牛南卒　字文名京真　号松蔭　医ふて詩を名くり　○武蔵野話刊行　不忍村　世為窪塙英

同十三年丙子　八月閏

正月廿日寄人安田躬弦卒　号秉本　称一巻　沼川ふ于慧然寺ふ葬　○二月十三日土肥麻鳴卒　七十餘　名弟雅　秀太郎　易学ふ
委しき人なり　芝金杉院ふ葬　○三月三日ゝ本下川浄瑠璃ふ薬師如来開帳　○三月十五日ゝ田向院にて同
黒法花ふる寺ふ開帳　○三月十六日ゝ浅草ふドブ店長遠寺にて縁金寺ふる祖師開帳
帳　○同十八日ゝ湯島社地にて野島浄山ふ地義ふる開帳　○同日より池の如来ふ

観音開帳○四月朔日より護国寺にて相州松本観世音開帳○四月廿八日より浅草寺
石階養寿院にて池之弦五郎祖師開帳○初夏より五月八月迄江戸疫痢流行人多く
死す○九月三日朝葺屋町桐長桐豆腐梁長十二畳折る　半沢氏曰年記焼の翌年寛政の元年
本所石原村郡下里川村松山の神の神本
[illegible]
[illegible]
○九月三日申刻京橋京町三丁目より出火一廓焼亡す　仮宅田町五丁目山の宿町　○五月十七日
両人鈴木芙蓉卒　六十八才名雍一号光蓮　浅草鳥越町大伝馬町に葬　○紫雲寺と称して浅草
[illegible]
○六月十八日より田町焼る亡府中深大寺元三大師開帳○閏八月三日四日
大風雨人家を損し樹木を倒す江戸市中外出水　本年秋より続き倒壊半分流失の辺
家し所上へ水来る
○九月七日戯作者山東京傳終　号醒氏名政称伝蔵　年六十四四谷鮫ヶ橋に葬　○俳家奇人談持参　暫者云々一編集
○九月梅花咲く○九月以後夜ごとに人いつくとも知らず物子を売り太鼓を打て
[illegible]
[illegible]○九月廿二日より幸橋御門外鼠地に於て観世音支春浩賜　勅道場

奥行あり　日数八時天寸五日を朝とす奥行の名　[illegible]
楽孫一系に焼亡す再び美濃を命じて奥行一型年九月に出来る○十一月十九日俳人
不随亦成美卒　俗称井筒屋八郎右衛門　車坂町蓮花寺に葬す

文化十四年丁丑

正月十二日暁八ツ時雨中新柴物町南側より出火西方芝居焼亡宮代町大坂町
表五番町人形町通迄焼○正月中旬俳師葛雲庵年仏卒　仏書の禁忌年
[illegible]
○二月九日両人金子金陵卒　名元圭○三月朔日本所法
恩寺祖師開帳○同二日より永代橋八丁堀稲荷社明神開帳○同日より葛西花又村
総持大明神開帳○同三日より青山長光寺にて雑沢地江ノ島弁天開帳○同十日より
十五日まで浅草寺観世音開帳○同日より浅草寺にて初午□寺天拝祖師開
帳○同十日より浅草大仏寺にて豫州海長寺新居祖師開帳○青山梅窓院泰平
別世寺開帳○同五日より香像観世音開帳○四月朔日より芝神明宮地内にて

祠孔梅隠吾妻花現開花○同日より同志鐘某師如来開帳○四月朔日萩野橋谷菊辛

於谷義名の信敬天異孔平と号し俗称弥右衛門と云雲丹度の史伝之弱年百才不谷茶宗を以義以林佛千社参りと号し七札を張る小徒年のうち祠毛七分て数十丈の大樹の根株ともいふも安くして

又以人より始れり此の寛政の以より移り天保の以小より盛ひ繁茂して仕能る

幸社とも呼るなるくらの札を貼以号きふのうちに矢文の芽をもて矢芽小ふ分しも有り矢保

ちうこれを禁ぶ ○四月十七日官医板田元伯辛 七十八才名翼字鶴叔

ぜられうり 号三下天徒ふ小業

完来辛 七十 ○五月四日官儒吉賀精里辛 七十八才名模称弥介 大坂の産 高小業以 ○五月より七月まより

江戸長雨小大旱○八月九日官儒岡田寒泉辛 七十一才名恕 称浪助 ○十月廿六日最上流

算術の師會田算左衛門安旨辛 七十一才於田投辛の門人文政二年卯十月より算小 ○同日

浄瑠璃語十寸見河内死 山谷義雲院小業以死後然して 七世河内と以河内の名芸小絶ち ○十月廿二日晴天未刻以江戸

市中雷鳴の如き響しと光り物空中を飛へ武蔵八王子横山宿の畑中へ落ちり

長三尺幅七尺厚六寸程隕りる有之

此年間記事

文化の始より淺草ふ七月十日の四方六千日来小赤き蜀黍を雷除とし高

ふ始る○淺草の奥山ふ社投現の后へ人麿の社を建る社辺小山次萩の数を載

景色を造れり○日蓮村小富士山を築く○日蓮里青雲寺の布袋尼像を

修性院へ移以○和合神の画像を始む 甚國人の知る所なれ共近以波暴を清拭の

板小多くあり画上小題して和合生万福日進太平

錢隨亭高孚書弟軍吉兆図と云り貴人も常小床小掛られうり大槻平次平 盤が清 裏に行し以清人朱

新拓小和合神の号を問れい清拭るそい寺山拾得ありといひつつふ一若さるるを人の瓊浦筆話

小載せうり清人蔣士詮り忠雅集小画和合神の詩ありてて寒山拾得の二人のみとせり荊山先生の

編辯燕居雑話小ふ〜くいり

○叶福助と云る泥製人を作りはじめたり 是小昔よりありて初ごろ三平二侯女小對

してつくりまうけしりのあり

○江戸奴田彩國友村鉄炮彩治國友藤兵衛能当といふ人業学の醫師山

田大因小薄り蘭人携来る所の鉄農中風を縫め小薬小縄を用ずして

風の勢を以て放つの鉄炮へ別小新意を加へ工夫を凝らし風鉄又筆炮と号し

製作始む 蘭名ウインドルウルと云文政のそのより山村氏る様ふ小業製のりの名

一發ふり和製ハ二發三発小及ふといり

○文化八年の比なりし石菖蒲の異品を玩ぶ事盛んに行れ翫ぶ行れ搨ぶ信し
を徒これを賞玩す　所謂南根三種黒竜黄金虎斑　翁年七十及耆老有栖川宮浦角
霊山虎の巻狩雲貫夜天下天爵徹通係青葉翠入之品の名なり
○当時代名家△儒家・山本北山・亀田鵬斎・太田錦城・朝川善庵△詩・市河
寛齋・大窪天民・館柳湾・菜地五山△書・輪池屋代弘・中村佛庵・渡辺
東河・巻星池・関克明・松本竜渠・董堂敬義・中川田義・二井親孝
△狂哥・芝新・蜀山人・六樹園　仮盛・文々舎　雪子丸・二陀羅法師・千首楼堅丸・鈍々亭
和楊・琴通舎英賀△俳諧・祇田房小知・宜麦・自然堂風朗・不随庵成美・八朶
園蓼太・田喜庵・護物・小袖庵頑嶺△画・狩野伊川院法印・同晴川院
法印・同英川・彭信・北一・若谷文晁・円文一・俵田井谷・英一雄・長谷川雪旦
鈴木南嶺・大岩雲峰・春木南湖△鑄物師・村田盛氏△碑・陽彫刻・窪世
祥△金彫・立戸紀冨久△刀鍛冶・水心子正秀・子柄山二重・大慶直胤

△蒔繪師・原更山　羊遊　仮内寛哉△浮世繪・葛飾戴斗・歌川豊國・川崎
廣重・国貞・国丸・歌麿・北斎・清峯・柳々居辰斎・柳川重信・泉守一　禅名　日吉
深川・秋堤・曙・琳川・鷹・菊川英山・勝川春亭・月春扇・葛飾北斎・川崎
いる俗粧の手法行れる○神仏の儀式・花田伊勢義雄・矢部日向行りる
○正月元日・元年々小減り○角觝人八十角冨五郎不白の門に入て茶事を
よくし根岸　○根岸田先生庭中長廿七間横巾八除の茶室あり一株の名樹
あり文化の比迄八盛の比なりしの繁人にて小集ひしば情むべし文政始の比枯
果てり○尾久村深山玄琳といる人の園中に牡丹数株を栽培花の比
名物多かりしと文化中より絶てり○文化の末大坂の竹本津賀太夫江
戸に下り深窓に於て芸れを示せり　文政中迄江戸に　○立川焉馬落咄しの盛なる比
迄江戸に事可楽朝藤坊爰楽出て隆盛に行れ○狂言茂の模様遠州流

手の物なれば伊豫漆といふ漆物をつくる　伊豫漆とハ二ヨ漆ホ　比ーゝ名なり　○文化の始より専ら紙彩る豆州熱海旅舎のつゞ今井某これを製し旅宿戸へ出して商ひむ

○和製唐紙始る　浅草の人朝山林蔵樂通称中川彼右衛門とのふものゝ工夫出し紙の表へ下白墨所ホ住ー　文化三寅年集　宿料を設け後文政十戌年深川高橋小奥地を買求せ始めこれを製せしめて世ホ彩ふ又後十年横五寸の紙を製して宝暦紙と号し天保元年寅十月六十八歳ホ〜〜く絶もとり

○ギヤマンの器物を製し始む其製箱来のもれホうちうつ○琉球扇さゝやアヒ生ヒ○居風呂の鉄炮ホ火を焚て生湯の中へ金魚或ハ緋鯉の類をそゝるしてうゑ物とし為国淺草河岸ホ於ホ始りし

○砂村玉地稲荷社へ疫癘を患ふるものゝ彩形して奚論を得るよしあて

来詣する事始る

武江年表巻之七終